

F. その他

①大学院生・研究者等の積極的な受入・派遣等

●事例 8

具体的に何を実施し、何が困難であったのか

優れた実務家、研究者を養成するために、社会人、学部の学生を問わず多くの人々に受験、入学してもらうことを期待していたが、本プログラム導入後、新規に博士前期課程に入学したのは社会人学生が数名であった。

苦勞したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか

社会人で入学した3名はいずれも職場の了解をえて、研究休職をとったうえで本学で学んでいる。社会人にとって2年間（博士前期課程）ないし3年間（博士後期課程）の時間をかけて研究を進めていくことは時間的、金銭的な負担が大きいようであり、職場や社会のさらなる理解が必要であると考えられる。

どのように対応し、そのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか

本プログラムに参加する教員が積極的に自治体や企業等に働きかけをおこない、パンフレット等を配布するなどの活動を行った。